



発行所 一般社団法人長崎県手をつなぐ育成会  
発行者 甲田 裕  
〒852-8104 長崎市茂里町 3-24  
長崎県総合福祉センター 県棟 4F 408号  
Tel : 095-846-8730 Fax : 095-846-8738  
E-mail : info@ikusei-nagasaki.jp  
発行日:平成28年9月21日

## 第56回九州地区手をつなぐ育成会長崎県大会開催！！

併催 九州地区事業所協議会九州大会 第31回長崎県手をつなぐ育成会長崎大会

○主 題 「障害のある人もない人も共に生きる 平和で拓かれた社会の実現」

○大会スローガン 「がんばらば 共にくらす ところ豊かな明日(みらい)づくり

第56回九州地区手をつなぐ育成会長崎県大会が去る8月27日、28日両日に、長崎ブリックホールで行われ、九州各地から1300名の参加者が集いました。

1日目、最初に中央情勢報告として、全国手をつなぐ育成会連合会の田中統括から報告がある予定でしたが、その前に、この7月26日に相模原市の障がい者施設で起こった事件について、全国育成会連合会の久保会長から会場に向けてのメッセージがありました。すでに会長からの文章でのメッセージは、育成会としての内容と、本人向けの内容が発表されていますが、改めて、その後の反響などについて話されました。なかでも、本人さんの中には、「毎日の生活も不安と恐怖で耐えられなかったが、会長のメッセージを読んで元気を出していこうと考えた」という内容や、一方、外部からの意見の中には、容疑者のような障害のある人に対して偏った考えをもつ人もおり、自分を強者と思つての言葉で、「しかし、今の自分もいつ障害を持つかわからないし、自分の家族がそうなるかもしれない、だから、障害のある人の人権を自分たちと同じように大事だと」分かって欲しいと話されました。そして、育成会は65年間も知的障害のある人たちの権利擁護の運動をしてきたのに、世の中はまだまだ変わっていない。根底にあるそれらの差別的な考えが少しでもなくなるように、もっと地域に向かって頑張っていきましょうと話され、会場から大きな拍手がわき起こりました。

その後の各分科会でも、親の方の分科会と本人分科会に分かれそれぞれのテーマとなる内容を熱く議論し、有意義な時間となったようです。(2ページから7ページに分科会報告あり)



挨拶をされる久保会長

2日目の式典は、長崎市育成会のお母さんたちによる「手をつなぐ母の歌」でスタートし、多くの来賓と参加者の中、九州地区20名(うち長崎県5名)、長崎県大会9名の方たちが甲田会長より表彰を受けられました。その後、記念講演として、全国育成会連合会の政策センター委員であり「手をつなぐ」の編集委員でもある又村あおい氏から「総合支援法3年の見直し～何がどう変わるのか～」という題でお話を聞きました。国の動きや新しく変わる法律の内容を、具体的な話なども織り交ぜて、とてもわかりやすく話していただきました。障害福祉サービスの今後をしっかりと見据えていかなければと感じた2時間となりました。

最後の閉会式では、大会決議文と本人大会アピールの案が読み上げられ、その後会場からの承認を得ることができました。そして、来年の開催県である村岡佐賀県会長の挨拶のあと、来年の再会を約束しました。

**第56回九州地区手をつなぐ育成会長崎県大会九州地区手をつなぐ育成会連絡協議会会長表彰  
第31回長崎県手をつなぐ育成会長崎県大会長崎県手をつなぐ育成会会長表彰**

今回の九州大会では、2年ごとに開催される長崎県大会も併催されましたので、九州大会と県大会それぞれに、長年育成会の為また本人支援に活動されてきた方々に、日頃の感謝を込めて会長より表彰状及び感謝状が贈られました。(長崎県関係者について掲載させていただきます。)

**皆様のこれまでのご努力とご尽力に心から感謝申し上げます。謹んでお祝い申し上げます。おめでとうございます。**



○九州地区手をつなぐ育成会連絡協議会  
(会長表彰)

- ・坂口屋 清吉氏 (平戸市)
- ・大久保 ひろ子氏 (平戸市)
- ・松野 九州男氏 (平戸市)

(感謝状)

- ・山田 順子氏 (長崎市)
- ・山田 直子氏 (長崎市)

○長崎県手をつなぐ育成会  
(会長表彰)

- ・小林嘉崇子氏 (佐世保市)
- ・久保田勝英氏 (時津町)
- ・杉山 順次氏 (平戸市)
- ・村川 泰夫氏 (平戸市)

(感謝状)

- ・吉井 裕子氏 (長崎市)
- ・内藤 貴子氏 (長崎市)
- ・毛利 和美氏 (長崎市)
- ・島 京子氏 (長崎市)

**分科会報告**

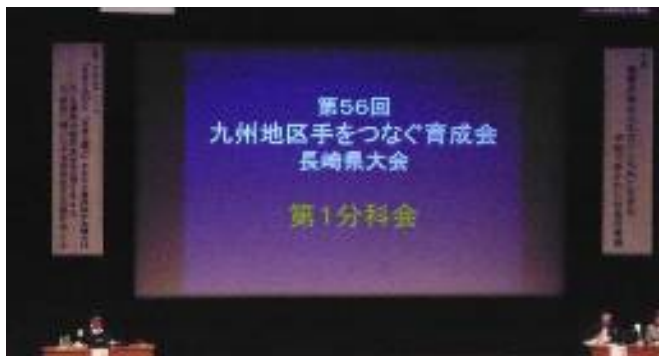
**◇第1分科会 「自分で決める」「自分で選ぶ」を支える意思決定支援とは**

- コーディネーター 田中 正博氏 (全国手をつなぐ育成会連合会 統括)
- 発表者 ①花田 敏秀氏 (福岡市手をつなぐ育成会 ひまわり園施設長)
- ②久森 栄子氏 (北九州市手をつなぐ育成会 副会長)

第1分科会では意思決定支援をテーマとして、支援者の立場、家族(親)の立場からの発表を基に分科会を進めました。

始めに、福岡市の花田さんより支援者の立場からの発表がありました。福祉の世界の変遷により権利擁護の考え方も変わってきて、意思決定支援が注目されるようになりました。これからの支援のあり方について事例を交えながら話されました。次に北九州市の久森さんより、親の立場から、ダウン

症の娘さんとの28年間の生活の中で体験してな情報と多くの経験が大切であり、支援者には、本人の障害をしっかりと理解し、希望や願いを十分に配慮した自己決定を支援しながら意思を汲み取ってほしいと話されました。家族や支援者、本人など第一分科会はもっとも参加者が多く、注目の高い課題であったことが伺えます。家族や支援者、本人など様々な立場の方がいましたが、意思決定支援の現状と後半は田中統括



の進行で、意思決定支援ガイドライン（案）についての説明があり、発表者のお二人や会場の参加者に意見を求めながら会が進みました。それぞれの意識や技術の向上と連携の必要性、また、本人に携わる人みんなと一緒に考えていく必要のある課題であることを強く感じました。今後の展開について知り、考える機会となりました。今後本人の意思がしっかりと反映できる生活を支援していけるように一緒に考えていきたいと思えます。（第1分科会担当 江口啓介）

第1分科会に参加して

西海市手をつなぐ育成会 互隣の家施設長 古庄正輝

今回、第1分科会に参加し、支援者と家族それぞれの立場から意思決定支援に対する考えや具体的な取り組みを伺うことができ、改めてこの支援の難しさや実践の大切さを実感することができました。また、これまでの自分自身の支援実践を振り返りながら、一人ひとりの意思を十分くみ取ることができていたか？自分や事業所の都合が優先されていなかったか？改めて多くのことを考えさせられました。私たち支援者から見た意思決定支援とは、サービスの質や利用者さんの満足度を向上させるためにも重要な要素ですので、これからも家庭・学校・地域・事業所との連携を図りながら、それぞれの場所でそれぞれの立場から、利用者さんたちが自分らしく生きるための支援を実践していきたいと思えます。

#### ◇第2分科会 権利擁護について考える

○コーディネーター 又村あおい氏（全国手をつなぐ育成会連合会政策センター委員他）

○発表者 ①山下うらら氏（熊本 八代育成会 NPO法人とら太の会 みのり施設長）

②松下 清高氏（大分県手をつなぐ育成会副会長）



山下さんと松下さん



第2分科会では、「権利擁護について考える」をテーマに協議を行った。まず初めに全日本手をつなぐ育成会連合会政策センター委員の又村あおい氏より、権利擁護、障害者差別解消法の概要、成年後見制度の概要についてわかりやすく説明が行われた。

次に八代手をつなぐ育成会、認定NPO法人とら太の会みのりの施設長、山下うらら氏より、「差別のない共生社会づくり」として事業所での取り組みや、ご自身の障害者との出会い、事業所と地域との関わりなどについて発表があった。体験談を交えた話でご家族も支援者も共感できる部分が多くあったのではないだろうか。

その後、大分県手をつなぐ育成会副理事長、松下清高氏より「誰もが心豊かに暮らせる大分県づくり」として主に大分での障害者差別、虐待の実態や成年後見制度の活用、条例制定の取り組みについて発表があった。特に大分県の条例については実際のパンフレットも配布され、大分県の取り組みの経緯とこれからを知ることができた。

最後に会場からの質問に答える時間が設けられ、地域との関わり方についてや福祉サース制度の問題などについて意見交換を行った。（第2分科会担当 毛利和美）

第2分科会に参加して

時津町手をつなぐ育成会 那須 順

満席の第2分科会場では、権利擁護の基礎が、又村氏の軽妙なトークで分かりやすく解説され、言葉から受ける、固く難しい印象がほぐれかけたところで、お二人の体験発表に入りました。八代市のB型施設長・山下氏は偏見や差別から心無い言葉を受けたものの、時間をかけて地域理解を→

→得た活動体験を、大分県育成会の副理事長・松下氏は差別・虐待への取り組み、成年後見制度の利用と、県の差別禁止条例制定に会が関わったこと、今後の展望についてお話しされました。10年以上前とはいえ、「誰の許可を得てここでこんなことをしているのか」と言われた、という山下氏のお話には、当会も似たような経験をしたことを思い出し、涙しました。

「権利擁護」と聞くとすごく壮大なテーマに感じますが、お二人のお話から「障がいの有無に関わらず、地域で生活できることが当たり前であるように」活動されてきたこと＝「権利擁護」であり、私たちも日々その活動を担っているのだと、改めて感じました。質疑応答では成年後見に関する質問が多く、そのテーマで引き続き議論したい、と思う参加者も多かったのでは…との印象を受けました。来年以降の大会にも期待したいと思います。

◇第3分科会 魅力ある事業所づくり

- コーディネーター 田中 寛氏 (沖縄県手をつなぐ育成会 理事長)
- 発表者 ①十島 真理氏 (鹿児島県手をつなぐ育成会 吾子の里 きずな学園施設長)
- ②中島 哲司氏 (佐賀県手をつなぐ育成会 ふれあい作業所所長)

第3分科会は「魅力ある事業所づくり」というテーマでコーディネーターを沖縄県手をつなぐ育成会 田中寛氏が務められ分科会を進めていきました。質問も多く、あっという間の2時間でした。



一人目の発表者 佐賀県中島様からはリーマンショック(米国)の影響が作業所にも波及し下請け作業の

売り上げが0円になってしまったが、前職の営業で培ったノウハウをいかし、利用者の方に合った作業を地域の中から開拓し年々工賃がアップしているという報告がありました。

鹿児島県十島様からは今の社会状況や「やまゆり園事件」を踏まえ、当たり前の日常生活を大切に、利用者やご家族の笑顔を大切に運営していきたい。又、今後育成会の考え方(特に権利擁護)に賛同する事業所に加入促進を働き掛けたいと説明がありました。

今回は事前に質問票を配布し多数の提出がありました。特にふれあい作業所で取り組んだ作業についての質問が多く、作業開拓の仕方や導入した理由、逆に廃止した理由など作業種目を選択する判断基準等の質問が寄せられ、参加者が少しでも高い工賃を支払いたいという思いを持ち、日々奮闘されていると感じました。

最後にコーディネーターの田中氏から「やまゆり園」の事件後、セキュリティーの強化や措置入院の課題等だけにとらわれず、育成会として何をどのように考え、ご本人の人権を守っていくのか。答えはこの会場で出せるわけではなく、私たち自身がどのように地域に働きかけていくのか検討していかないと締めくくられました。(第3分科会担当 山田直子)

第3分科会に参加して 諫早市手をつなぐ育成会 土井美由子

昨年に続いて事業所関係の分科会に参加しました。各地域の事業所の特色、取組みについての話を聴いて、同調したり感心したりと刺激を受けました。そして、子どもが一日の大半を過ごす事業所に活かすことがないかとおぼつかない思考力働かせて拝聴しました。

佐賀県のB型事業所の目標工賃達成指導員の工賃アップした行程の発表は、法改正の中の工賃額を評価した報酬の導入(検討)に関連するのかなと思います。鹿児島県の発表は生活介護を主体に運営するきずな学園のパワフルな眠気も覚める口調でした。「運動体と事業所は両輪で運動体を支える基盤

の事業所」という理論は、今の諫早に当てはまることだと思います。最後にとっても参考になったことは、コーディネーターの沖縄県の田中寛氏の巧みな進行と私としては、いまさら聞けない内容の説明をお話の中でして下さったことに今までの疑問が解決できてほっとしました。

◇第4分科会 「はたらき続けるために」(本人部会)

○講演 ジブラルタ生命 中脇 明子氏

○コーディネーター 堀 浩一郎氏 (福岡市手をつなぐ育成会ひまわりの里 施設長)

○発表者

- ①茨木智沙氏 (福岡県) ②寺崎真由美氏 (佐賀県) ③高橋直樹氏 (長崎県)
- ④磯村昭仁氏 (大分県) ⑤中山祥子 (熊本県) ⑥村崎ひかる氏 (宮崎県) ⑦大田直人氏 (鹿児島県)
- ⑧幸知小夏氏 (沖縄県) ⑨古川加恵氏 (福岡市) ⑩濱崎忠義氏 (北九州市)



10名の発表者の皆さん

第4分科会は、約120名の方が参加されました。「はたらき続けるために」というテーマのもと、前半は、講演、後半は、各県の本人代表者10名の発表、そしてコーディネーターを中心に質問形式で進めました。講演は、ジブラルタ生命保険株式会社 ジェネラル・サービスチームの中脇明子様にしていただきました。会社での仕事の内容や働き続けるための工夫や配慮などについて話していただきました。特に配慮については、

「障害特性に合わせた業務の提供」「健常者目線の常識で考えない」など雇用する企業としての姿勢についての話があり共感する内容がたくさんありました。

本人発表では、進め方について、これまでと少し趣向を変えて実施しました。「はたらき続けるために」というテーマに対して、発表の内容が、仕事以外の趣味や楽しみといった話が多かったのがとても印象的でした。「働くこと」を支えているのは、仕事以外のそれぞれの余暇の「楽しみ」



司会は「ふれあいネットピア」の江口紀雄さん

が大きいことを改めて感じさせられた内容でした。コーディネーターの福岡市手をつなぐ育成会の事務局長である堀浩一郎様と発表者との対談や参加者からの活発な質問、そして、助言者としての中脇明子様のお話しなどとても有意義な時間であったと感じています。

最後は、コーディネーターの堀 浩一郎様の「はたらき続けるために」は、職場だけでなく、職場以外で生活環境を整えることが大切であることを私たち支援者は忘れてはいけないとまとめていただき第4分科会を閉会いたしました。(第4分科会担当 田坂嘉朗)



◇第5分科会 本人ワークショップ(みんなで知る見るプログラム)

- コーディネーター 吉川 かおり氏(明星大学人文学部福祉実践科 教授)
- ファシリテーター
  - ①林田真一氏(長崎市) ②辻浩一郎氏(ふれあいネットワークピア)
  - ③山本カズ子氏(長崎市)、神尾美裕氏(長崎市)、松下優子氏(諫早市)
  - ④村岡麻美氏(長崎市) ⑤榮木隆子氏(長崎市)



第5分科会では本人ワークショップとして、「みんなで知る見るプログラム」を開発委員の一人である吉川かおり先生にコーディネーターをしていただきました。

今回行ったワークショップは「好きなもので集まれ」「長崎版〇×クイズ」「リラックス体操」「私の歴史」「ほめ言葉リストを作ろう」の5つで、ファシリテーター(話し合いを進めたり、みんなの意見を引き出す人)などの役割は「長崎きずな」連絡協議会のメンバーが中心となり



分科会を進めていきました。第5分科会では本人参加者80名、支援者なども含めると総数108名の大人数で、分科会を進行していくためにはファシリテーターの動きが重要になってきます。各グループに入ったファシリテーターが支援者の援助を受けながら、初めて「みんなで知る見るプログラム」に参加するご本人にもたくさんの意見を言ってもらえるように動いていました。



また、〇×クイズでは吉川先生から“グループホームに入所している人は自立しているか?”など考える問題を出してもらい、〇なのか×なのか自分の意見を発表してもらうことで会場が一体となって「みんなで知る見るプログラム」を楽しんでいる様子が見られました。

第5分科会には全国育成会連合会の久保会長や特別支援学校の先生方など見学の方もたくさん見られてご好評をいただきました。また、参加したご本人からも“楽しかった!”“また、参加したい!”などの意見をたくさん受けましたので、今回の分科会だけで終わるのではなく「みんなで知る見るプログラム」や本人活動を継続していくことが大切だと改めて感じました。(第5分科会担当 藤原剛)

「知る見るプログラムに参加して」

西海市手をつなぐ育成会 小佐々美奈子

私はグループ支援者として参加し、楽しみもありましたが不安もいっぱいでした。でも、ワークが始まり、グループで楽しそうに話をしている姿を見て嬉しくなりました。

「私の歴史」のところでは、みなさん真剣に自分の過去を振り返って、思い出しながら顔シールを貼っていました。過去は辛い時期があったのですが、今は「楽しい」「頑張りたい」などの言葉が聞けて良かったと思います。しかし私には一つの課題が残りました。一人の方をどうしても打ち解けさせることができず、みんなと話をしたり笑顔にしてあげられなかったことです。でも、みなさんが「楽しかった」「また参加したい」との声を聞き嬉しく思いました。

育成会九州大会長崎大会に参加して楽しかったです。「知る見る」では初めてファシリテーターをしました。「私の歴史」というワークでは、手を挙げてみんなの前で子どもの頃いじめにあったことを話しました。そして、長崎きずなの本人部会では、自己紹介や発言ができなかった私が、2日目にはステージの上で本人決議文を読みました。緊張しないで大きな声で読むことができました。今回はいろんな経験ができて楽しかったです。またやってみたいです。

(諫早市 松下朋子さん)



## 【本人部会】 観光コース

### さるく 平和コース

参加者 29名



平和コースは、原子爆弾が投下された後の70年の歴史を感じとれるコース。原爆資料館では地元ガイドさんに詳しく案内してもらいました。浦上天主堂に立ち寄った後、カステラ屋さんで長崎のちりんちりんアイスやカステラをいただきました。最後に平和公園も周って、犠牲者を追悼。行きも帰りも路面電車を利用して、浦上界隈をさるきました。



### さるく 世界遺産コース

「グラバー園」参加者 73名

世界遺産さるくコースは、異国情緒ただよスポット。世界遺産に登録されたグラバー園では、三菱第三ドックハウスからの絶景を堪能し、発祥の物を探したりしました。貿易の窓口、出島資料館や大浦天主堂も周り、長崎名物の甘くて冷たいミルクケーキを食べてひとやすみ。暑い中たくさんさるきましたが、西洋に開かれた長崎を満喫できました。



「さるく」とはぶらぶら歩くという長崎弁です。路面電車は長崎ではちんちん電車とも言います。



### 軍艦島周遊コース

参加者 103名



### ペンギン水族館コース

参加者 153名



「進撃の巨人」の映画の舞台にもなった世界遺産の軍艦島へいざ出発。路面電車をチャーターし、約100名の大移動でした。ターミナルまで歩いて乗船すると船内は涼しくて快適！長崎港を出発し軍艦島の周囲をゆっくりと1周し、船内ガイドの案内で炭鉱の町として栄えた端島を船の上から眺め、その当時の住人の暮らしに思いを馳せました。波もなく快適なひとときの船旅となりました。

世界でペンギンの種類が一番多い長崎ペンギン水族館は、希望者が多く、約150名の参加者でした。バス3台での移動。水族館では、ペンギンたちの愛らしいしぐさに癒され、ペンギンたちに触れ合う機会にも恵まれました。バスの車窓から、バスガイドさんの案内で市内観光も出来ました。帰りは、和泉屋のカステラ屋さんに立ち寄り、試食を食べたり、お土産を買ったり、楽しい時間を過ごしました。



(第6分科会担当 開田裕子)

# 平成 28 年度定期総会

6月18日(土)  
長崎原爆資料館ホール

## 総会・議事

梅雨入りとはいえ日差しの厳しいこの日、180名以上の出席者に、委任状1211通を加え、開催されました。

県知事、県議会議長をはじめ、多くのご来賓から祝辞をいただいた後、西海市育成会の山口法明氏が議長に選出され、「昨年度事業報告と決算」および「今年度事業計画と予算」、「理事・監事の変更（下部記載）」の3議案が承認されました。

質疑応答では、今年度事業の基本計画にある「成年後見制度の知見を広めるための工夫とは具体的にどんなことか」という

質問に「電話相談など個別のニーズには既に対応しているが、被後見人の死後、後見人が（葬儀の段取りなど）活動できないといった、法律による支援の断ち切り問題にも対応していけないか、など検討中」と回答があり、親の高齢化への関心の高さが伺えました。



## 知る見るプログラムの紹介



今回は議事終了後に、長崎市育成会の藤原剛氏から「みんなで知る見るプログラム」の紹介がありました。これは、当事者本人が夢や可能性を見つけたり、自分の障害について考え、自己表現力を高めるために「知的障がいのある本人による『障がいを知る・可能性を見るプロジェクト』」として開発されたプログラムで、県としても今年度以降普及を目指すものです。

会場では、宮城県での開催を中心とした活動と概要、3月に本県で開催された様子が紹介されました。



サイコロトークや〇×クイズなど、レクレーション感覚で話が弾むよう工夫したプログラムで、とても楽しそうな様子が伝わってきました。

参加者を代表して林田真一さんからの発表後、会場の参加者からの要望もあり、総会に出席していたプログラムの参加者（本人さん）にも、急きょ壇上で感想を述べてもらうことに。

「楽しかった」「また参加したい」「いろんな話ができ、楽しい中でもとても勉強になった」など、恥ずかしくもあるが誇らしげといった表情で生き生きと話されるみなさんに、会場からは大きな拍手が贈られました。

藤原氏によると、意思疎通や自己表現の難しい人にはどう参加してもらったらいいか、といった課題もあり、支援する側も考えさせられ、勉強になるプログラムだそうです。

今後、各地での開催が普及すれば、取り組み自体も成長が望める活動であり、あらゆるサービスが法律に則り事業として成立する現在において「障がいのある人が充実した人生を送るための（心の）支援」＝福祉の原点のひとつとしても期待されるのではないかと、会場の盛り上がりそう語っているような総会の締めくくりでした。



平成 28 年度新理事・監事（期中変更分）ご紹介  
理事：品川 桂子氏（香月氏に代わり）  
理事：榎津 雄三郎氏（榎田氏に代わり）  
監事：金松 敏信氏（小方氏に代わり）



報告 第3回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会 <神奈川県大会>

誕生した大切な命だから 一人ひとり充実した一生を！

去る7月2日(土)～3日(日)に神奈川県横浜市において「第3回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会神奈川県大会」が開催され、長崎県からは35名の方が参加されました。全国各地から約2100名の方が神奈川県民ホールに集い、盛大な大会となりました。大会では長崎県より雲仙市の馬渡則之氏がこれまでの業績を称えられ会長表彰を受けられました。

受賞おめでとうございます



馬渡 則之氏

7月2日(土)

- ・家族支援者分科会(第1～第4)
- ・ライブセッション2016@かながわ
- ・懇親会

本人大会

- 『自分のことを自分の声で話そう』
- ・分科会(A～D)・バスツアー(E)
- ・ライブセッション2016@かながわ
- ・交流会

第1分科会 基調講演

『親の幸せ、子どもの幸せ』

明星大学教授 吉川かおり氏



7月3日(日)

- ・合同全体会
- ・中央情勢報告(統括 田中正博氏)
- ・記念講演「よるこびを力に」  
有森裕子氏(元マラソン選手)

第2分科会

『インクルーシブな社会で育つ』

～権利条約から読みとく教育

社会参加～

コーディネーター

「手をつなぐ」誌編集委員

又村 あおい氏

第4分科会

『成人後の人生を自立的に暮らす』

～制度を利用する際の意思決定支援のあり方～

基調講演 上智大学教授

大塚 晃 氏



記念講演 有森 裕子氏



中央情勢報告  
田中 正博 氏



第3分科会シンポジウムの様子  
『自分らしさを発揮して生きる』

「全国大会神奈川県大会に参加して」長崎きずなの会 会長 吉田光一(塚ちゃん雲仙たまご村勤務)

本人分科会 B コースの「はたらくトーク」で、身体・知的・精神障害のある人たちがいじめ、差別、偏見などを体験したことについて意見を発表されました。それを聴いて私は、障害があっても一人の人間として社会で活躍できるようになりたい。障害者に対して差別をなくしてほしいと思いました。

また、交流会では神奈川県の人達だけで盛り上がって、あまり良い印象ではなかったので、8月の長崎県大会ではみんなで楽しめる交流会にしておもてなしをしたいと思います。

## 障害者施策に関する意見を聴く会

平成28年7月27日(水) 13:30より県庁別館にて「平成28年度障害者施策に関する意見を聴く会」が開催されました。長崎県手をつなぐ育

成会本人部会「長崎きずな」連絡協議会より、久保田孝行さん(ふれあいネットワークピア雲仙支部)が進行を務められ、吉田光一さん(島原市育成会)、中田匡則さん(ふれあいネットワークピア諫



早支部)、井手志津子さん(諫早市育成会)が意見発表をされました。それぞれ「障害者の働く姿を見に来て欲しい。」「障害者の働く場を多く作って欲しい。」「グループホームの増設」「障害者のアート活動の後押し」「合理的配慮や権利擁護」「障害者の支援特性を踏まえた教育の提供」などについての要望を上げられました。県障害福祉課からは課長を始め、自立就労支援班、地域福祉班、管理班、地域福祉班の代表者が

出席し、それぞれの担当者が事前に「きずなの会」で集約され提出された要望について丁寧に回答されました。「グループホームの増設」や「就労先、実習先の確保」「工賃アップ」など何度も要望として上がるものもありますが、今年は「障害者向けの結婚相談所」や「本人向けの研修会」「65歳を超えても今の生活を続けたい」などの要望もありました。簡単に叶う要望ばかりではありませんが、継続して要望し続けることが大切です。行政と障害者本人が直接話す機会がもっと増えて、より多くの障害のある人の暮らしや悩みをもっと知っていただきたいと強く思いました。

(本人部会サポーティングマネージャー 吉井裕子)



## わたぼうしコンサート in ながさき 2016 は!



◆21年目の“わたぼうしコンサート in ながさき 2016”は、今年から「山の日」と祝日となった8月11日、長崎市民会館文化ホールで開かれ、島原市宮の町原口美和さんの「たっせいかん」が大賞に選ばれました。◆島原市手をつなぐ育成会「ネットワークひかり」を利用されている隈部大樹さん作詞「キッチン えぶろん」は県社会福祉協議会会長賞に。202作品から30作品へ。入選作品8作品までの選考は、どの作品も暖かい心がうたわれていて、選考委員は頭を抱えてしまいます。皆さん、次年度に向けた作品づくりにチャレンジしてみても如何でしょうか。◆仲間と誘い合い、コンサート会場へ足を運ぶことも忘れないで下さい。(審査員 甲田記)

平成28年度知的障害者相談員研修会報告

コロニー雲仙連合育成会  
岸部 誠



ジブラルタ生命  
秋田直人さんと伊藤祐希子さん

「知的障害者相談員研修会」が県北地区は7月8日（金）佐世保西地区公民館で県南地区は7月22日（金）諫早市社会福祉会館で開催されました。

ジブラルタ生命保険株式会社福岡営業所所長秋田正人氏とライフプラン・コンサルタント伊藤祐希子氏を講師に「当事者の生活を豊かに～障害者基礎年金と資産の有効管理とは～」のテーマで行われました。

親亡き後の準備として、どこに住み、誰にどのような支援を受けるのかという「生活」と、生活をしていくための収入、財産の「生計」の両面でとらえ、親が健在なうちに残していく子供のために「やっておけること」「やっておきたいこと」「やっておくべきこと」を考えなくてはならないと思います。

そのために必要になる、幸せな生活設計のためのリスクマネジメント、税金のこと、介護のこと、相続のこと、遺産分割や信託のこと、成年後見制度から生命保険の活用まで、子供を社会に託していくためにひつような情報量豊富な研修会でした。

ただ、個人的には信託の部分をもう少し詳しく聞きたかったと思います。

障害の子供に残すお金の管理の一つの方法として「信託」制度があり、今回紹介していただいた家族信託の他にも特別障害者扶養信託制度や生命保険信託などがあると聞きます。そのような信託と成年後見制度をどのように組み合わせていくのがいいのかなど、もう少し踏み込んでいただけたら最高の研修会になったのではないかと考えております。

知的障害者相談委員研修会に参加して

相談支援事業所 えくぼ  
中村 眞理枝

障がい者の方の65歳問題が切実な問題になっており、介護を使うことになるのは、絶対なことであり、障がい年金からの支出を考えると利用に際し、いろいろな問題が発生してきます。

ご本人に関わる方たちを考えると、成年後見制度が大切な役割になると考えています。生活資金から貯蓄までしっかりと管理してもらえる利点があり、今回の研修も内容が資産に関わることでした。専門の方の知識を聞いて、本人、ご家族に一步踏み込んだ話ができるので、大変参考にさせていただきました。



知的障害児者・自閉症児者のための  
生活サポート総合補償制度

（年間掛金）Aプラン：17,000円、Bプラン：23,000円

入院給付金 個人賠償責任保険金 葬祭費用保険金  
死亡・後遺障害・入院・通院・手術の各保険金

2016年4月より 新プラン誕生！！

新プラン（Bプラン）の主な特長は

- ★入院給付金 2日目から補償
- ★個人賠償 最高3億円まで補償
- ★ケガの入院を日額5,000円、通院を3,000円補償

既往症、てんかん発作など知的障害児者・自閉症児者の方が抱える様々なリスクを補償するために開発された制度です。

パンフレットのご用命は下記事務局または担当代理店へお問い合わせください。



（事務局）ながさき知的障害児者生活サポート協会  
TEL：095-893-5503 FAX：095-814-1778

（担当代理店）ジェイアイシー九州  
TEL：092-791-7561 FAX：092-791-7562



◆日本庭園。松・もみじ・竹・苔むした石、灯籠・池などの組み合わせが定石である。しかし、季節毎に手入れにかかる費用も多額とのことで、日本庭園を模した庭づくりはなくなりつつある。庭師の仕事が激減。このため、伝統的な技術の継承も難しいとのこと。◆樹木は種類や環境にもよるが、人間の寿命をはるかに超えて生き続けることができる。屋久杉とは“1000年を越える”樹齢をさすものを云うらしい。平成の時代に入り

「樹木医」と呼ばれる国家資格が存在するようになった。(1991年度制定)この資格は、木の健康状態を診断し、樹勢を保つにはどんな手入れが必要かを示唆する「木のお医者」である。人が樹木の周りを踏み固めたことにより、根毛から水分を吸収できなくなり、樹勢が衰えたり、幹が空洞になりつつあるなどの状態に合わせてアドバイスする仕事として資格が生まれた。◆女性樹木医1号は、七尾市にある巨大木“フジ”の移植を成功させた塚本こなみ氏が、全国的に有名。講演等に全国から声がかかっている。◆彼女のメッセージを以下紹介。(池田まき子著「木の声が聞こえますか」岩崎書店 転写)

あなたには、木の声が聞こえますか。木をゆっくりと見ながら、  
そのささやきに耳をすましてみて下さい。木にそっと触れながら、  
その息づかいに耳を傾けてみて下さい。きっと、あなたにも、木からのメッセージが届くはずです。

きっと、あなたも、木の心と語り合えるはずです。

◆想いを伝えることが苦手である本人の言葉を代弁している知的障害者の親として、どこまで「本人の意思」を聴き届け、伝えているのか不安になる。約40年近く寝起きを共にしてきたのに、本人の気持ちを汲み取り、正確に代弁できているか自信がない。◆一度、彼女の著書を覗いてみては。お勧めしたい。彼女は、言葉のまとめに「樹恩」と使うことが多いと聞く。声なき声を聴く「樹木医」として極めた相応しい言葉と想いを寄せている。知的障害者の親にも通じるメッセージとも感じる。“塚本こなみ氏は、引きこもりの人への支援もなされている様子。機会が許されれば、直接、お話を聴くことが出来ればとも願っている。(甲田 記)



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者(本人・家族)に関しての教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全日本手をつなぐ育成会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。年間3,800円 B5版48ページ

長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。

申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738 へ

特別支援教育を必要とされている方のために生まれました。 広告

**ぜんちの こども傷害保険**

個人賠償責任補償  
 権利擁護費用補償 (弁護士費用)  
 ケガでの入通院保障

特別支援学級に通う児童・生徒のために開発された、障がい児のための専用保険です。知的障がいや発達障がいのある子どもたちを、事故や虐待被害などからお守りし、安心した学校生活を送っていただけます。

詳しい資料のご用命は、下記代理店をお願いいたします。

○取扱代理店  
**有限会社 トータルサービス(担当: 向井)**  
 TEL 095-832-2430 FAX 095-832-2580  
〒850-0032 長崎県長崎市南一丁目3番1号 三井住友銀行長崎ビル5階

○引受保険会社  
**ぜんち共済株式会社**  
〒101-0052 東京都千代田区若菜町3丁目5番8号  
 三井住友ビル5階  
<http://www.z-kyosai.com/>